

NPO 法人

第47号

# 芦安ファンクラブ通信

南アルプス地域の自然を愛するすべての人達に対して、地域の人々との交流を通じた南アルプスの環境保全及び適正利用に関する事業を行い、もって、南アルプス市芦安地域の活性化に寄与する。～芦安ファンクラブの理念～

特定非営利活動法人芦安ファンクラブ 事務局 南アルプス市芦安芦倉 1589-8 大滝要造

TEL 055-288-2531 FAX 055-288-2533 HP <http://ashiyasu.com> Mail [afc3193@net5.nus.ne.jp](mailto:afc3193@net5.nus.ne.jp)

## 登山教室レポート～秋の仙丈ヶ岳～

単純な言葉のようで奥が深い。。。

「帰れる処までしか、行っちゃいけないよ」竹沢長衛

10月6日(土)、13時。芦安山岳館。南アルプス芦安登山教室に23名の参加者と3名のスタッフが集合した。23名の参加者の中には、もう何回も登山教室に参加していただいているリピーターの方もいるが、南アルプス市が行っているトレッキング教室に参加されたこと、広報やファンクラブ通信で知ったり、知人に誘われたりしたことがきっかけという初参加の方もいる。様々な縁がきっかけで、このパーティが編成されたのであった。さあ、一泊二日の登山教室の始まりだ。天気予報によると明日からの天気は心配いらない。準備も万端。頑張っていくぞー。オー！

1日目は、大平山荘でスタッフ3名による座学が行われた。「仙丈ヶ岳と南アルプス」「南アルプスの主～竹沢長衛翁」。明日登る仙丈ヶ岳への思いをさらに高める一時であった。懇親会、おいしい食事、みんなの心もウキウキ、7時に消灯。おやすみなさい。「明日天気になあれ。」

ところが、寝ていると屋根をたたく音が。まるで「集中豪雨」のような雨。おい、天気予報の「明日は快晴です。」はどうしたんだ。布団の中で、ちょっと不安を感じた。長衛さんの言葉「帰れる処までしか、行っちゃいけないよ。」「山はどこへも行きゃしねえ、天気がよくなったらまた来るさ。」座学で学んだばかりの言葉がずしんと重く心に蘇ってきた。

二日目の行動が始まった。午前4時、山荘の照明に明かりが灯った。さあ、行動開始。天気はというと…小雨だが、

月は雲の切れ間から顔をのぞかせている。「もうちょっと待ってくださいよ。雨も上がりますよ。」と言っているようだ。

「帰れる処までしか、行っちゃいけないよ。」「山はどこへも行きゃしねえ、天気がよくなったらまた来るさ。」竹沢長衛さん、私たちはこれからもこの言葉を心に刻んで、安全登山を心掛けます。祈るような気持ちで天を仰ぐ26名であった。

足取りは軽く…とはいかなかったが、午前5時40分、登頂目指し、お世話になった大平山荘を後にした。登山の様子は、初めて登山教室に参加されたお二人に語っていただくことにする。

竹沢長衛さんの思いを大切に、26名全員が仙丈ヶ岳を楽しみ、協力し合って無事下山できたことに喜びを感じている。

芦安ファンクラブ 堀内 訓



# 念願かなって

## 杉山明美

私の住む南アルプス市からは、南アルプス、八ヶ岳、富士山をはじめ360度山々を見渡すことができ、この景色が私は大好きです。早朝少しの時間ですが歩き、四季折々のこれらの山々の姿から心にも体にも活力をもらっています。一時、県外に住んだ時、この山々を毎日見ることができないことに、本当に寂しさを感じました。

私にとって眺めるだけでも幸せな山々ですが、いつか登ってみたい……。そう思っている山はいくつかありました。仙丈ヶ岳はその一つでした。芦安ファンクラブの企画のおかげで、「仙丈ヶ岳に登れる！」機会に恵まれ、ありがとうございました。

当日は、霧に包まれ遠景を楽しむことはできず残念でしたが、登山道近くの紅葉や、沢を流れる水音に癒されながら登り、頂上に立てた時はうれしいかぎりでした。

山小屋に泊まったの山登りは、30年ぶりくらいでした。手作りの美しくおいしい夕飯に感激し、トイレがきれいになっていることにも驚きました。

初の3000メートルを超える山登りは、私にとってそうあまくありませんでしたが、魅せられている山々に、またいつか登ってみたいなと思っています。



# 仙丈ヶ岳 登山教室に参加して 太田まさ子

芦安山岳館の前。一人参加の私は、再会を楽しむ皆さんのお姿を見て「場違いな所へ来たのでは……。」と思いながら受付をしました。

伊那富士からの大きな仙丈ヶ岳に憧れ、又中央道のPAから眺めては「いつか登りたい」と思っていました。そんな私に山梨の友人から「広報に仙丈ヶ岳の募集があるよ」との連絡があり、思い切って申し込んだのでした。

ドキドキしながら車を乗り継ぎ北沢峠へ。大平山荘では行程の説明後「恒例の座学の後、食事までの時間はお楽しみのお懇親会です。」何も分からない私は手ぶらで集合場所へ。そこでは皆さん各自飲み物やおつまみを持って歓談。「このような会が長年続いていけば、皆さん和気あいあいなんだ……」と納得しました。すぐに私にも声をかけて下さり、肩の力も抜け輪の中に入れていただき、思いやりや親切さにどっぷりつかうことに致しました。夕食後には会員の方が育てられたブドウも美味しく頂きました。



夜中の寒い雨も風も出発時には収まり気持ち良く歩き始めました。暫くしてウサギギクの鮮やかな黄色が目飛び込み、足も軽く気分も爽快。行く手は相変わらず雲が邪魔をして頂上も見えませんが、赤や黄色に姿を変えた木々や足元のハイマツとウラシマツツジの緑と赤の競演に励まされ頂上に辿り着きました。

バンザーイ!!ヤッター! 長年の夢が叶いました。人気の山らしく、頂上は人でいっぱい。仙丈ならぬ戦場です。相変わらず山々は雲の中。「これも自然。又おいで。」と言われたように思いました。山々は見えなくても、皆でライチョウを探したり、鳴き声を聞きながらお花を探したりしました。また足の運びを指導して頂き、長い道も楽しく気持ちよく歩くことが出来、最高でした。北沢峠に戻り、ガイドさんや皆様に握手をしてお別れしました。念願が叶いました。皆様、本当にお世話になりました。ありがとうございました。翌日芦安ファンクラブの賛助会員として入会しました。またよろしく願います。



## 芦安ファンクラブ活動報告

# ～登山道等環境整備事業～

芦安ファンクラブは山梨県知事より委託を受けて、登山道に設置してある指導標や表示板、ベンチ、手すりなどの調査を行いました。普段、当たり前のように利用している登山道の構造物ですが、この調査によって、その利用価値や安全性について改めて考える機会となりました。以下はその報告です。（記：塩沢久仙）

□調査山域 北岳・鳳凰山・白鳳峠・ハケ岳・大菩薩嶺・瑞牆山・金峰山・黒金山など 12 箇所

□調査期間 平成 24 年 9 月 20 日～10 月 25 日

□調査報告

【指導標】調査したすべてのルートに分岐点には新旧様々な指導標が建てられており、老朽化、風化により判読不能なものも目立った。場合によっては逆効果をもたらし、混乱を招く可能性がある。

登山の本質を考え、どこまできめ細かく誘導するかの基準を構築する必要がある。今後、それを根拠に指導標が設置されることが望まれる。

【頂上の表示・方位盤】

日本山岳の大きな特徴は、ほとんどの山に登り始めてその日のうちに頂上に達することができる点にある。そのため、頂上の存在価値は大きく、どこの山にも頂上を示す構造物が設置されていて利用価値も大きい。しかしながらどの頂上にも複数の表示柱・板が設置され、風化などにより景観にも悪影響を与えている事例があった。

山梨県山岳の頂上に設置される表示柱・板、方位盤の理想の形を追求し、気高く貴い山頂を目指して欲しい。また、登山史の証言者である祠、仏像、鳥居、三角点等も大切に残すことにより、山岳文化の拠点としての山頂の価値が高まり、幅広い利用が期待できる。

【橋・階段・手すり・ロープ等】

これらの施設は、時には登山者の生命に関わる重要なものであるため、何にも優先して安全第一でなければならない。そのため、入念な安全措置を施し、現地に精通している山小屋や山岳関係者との密なる連携の下に設置し、山々を地形の変化や表土の流失等から守ることや安全維持のためにきめ細かなメンテナンスが要求される。

【設置者】この度の調査で、老朽し放棄された様々な材料の看板が多いことに驚いた。その主たる原因は、関係機関や団体（個人・山小屋含む）が横の連携もなく、それぞれの考えにより設置されていることにある。また一部は無許可で設置され、老朽化しても放置されている。

環境省、県、市町村では、これらのことを解決するために、共通意識をもち、自然界の中で「誰が、何をすべきか」をはっきりと位置付け、受け入れ側として安全安心の登山の提供や自然保護活動の推進を図って欲しい。

□まとめ 世界に誇る山梨県の自然の素晴らしさを、この調査を通じて改めて認識すると共に、この自然を一人でも多くの人に満喫してもらい、傷つけることなく未来に引き継いでいかなければならないことを痛感した。



# 【連載】私と「山」と

芦安ファンクラブには、山を愛し、山とともに人生を歩んでいる会員がたくさんいます。その中でも、ファンクラブ随一の登山経験を誇る井口功さんに、お話をうかがいました！！井口さんが、どのように山と関わってきたのか、その一端を皆さんにご紹介します。



〈今日はよろしくお願ひします。〉

こちらこそ、よろしくお願ひします。まず、これまでに登った山を山域ごとにまとめてきたので…。

## 《国内》

北アルプス…112山 南アルプス…80山  
中央アルプス、御嶽、乗鞍岳…29山 八ヶ岳…29山  
奥秩父…44山 山梨…186山 信州…121山  
群馬…106山 北海道…35山 東北…64山  
関東、東京、新潟…155山 東海、北陸、近畿…74山  
九州、四国、中国…38山

## 《海外》

登頂 アラスカ マッキンリー峰  
アルゼンチン アコンカグア峰  
ヨーロッパ モンブラン峰  
カナダ テンプル山(2回)、アシニボイン峰、  
ピラミッド山  
韓国(岩登り) インスホンA、Bルート  
中国 無名峰(初登頂)、奥太那山、二姑娘峰  
大姑娘峰、アムネマチン山  
失敗 カナダ ロブソン山(2回) 中国 雪隆包峰 奥太基峰  
ヨーロッパ マッターホルン山 パキスタン ディラン山  
ネパール テンギラギタウ山、ピム山、  
ラングモチェリ山

〈すごい！！まず、この登山歴に驚かされますね。〉

15歳から26歳までの記録をなくしてしまい、27歳からの記録になるのですが、67歳の現在まで41年間の山行日数は3404日になります。

〈すごい日数ですね。小さい頃から山が好きだったのですか。〉  
ええ、八王子市出身なのですが、小学生の頃よく近くの里山で遊んでいたのと、近所の人々がキャンプへ連れて行ってくれたことが山に親しむ気持ちを育ててくれたのかもしれない。

〈それで、高校生の頃に本格的に登山を始めたのですね。〉  
そうなんです。もう、山のことを考えて高校を選んでいましたね。私が入ったのは私立高校だったのですが、その山岳部は冬の山行をやっていたんです。

〈高校1年生から冬山に！？〉  
初めての冬山は中央アルプスでした。清水平という所にテントを張り、木曾駒ヶ岳往復の計画だったんです。その時隣にテントを張っていた大学山岳部の学生が1人木曾駒で滑落して亡くなったんです。冬山の洗礼を受けた、という感じでしたね。

〈それでも、山岳部を続けられたんですね。〉  
ええ、毎日が楽しくて楽しくて仕方がありませんでした。仲間たちと毎日走っていました。今でもあの頃のことを思い出すと楽しい気持ちになりますよ。

〈高校時代の頃のことをもう少し教えていただけますか。〉  
とにかく山に夢中でした。17歳の時に八王子の山岳会に入りました。

〈山岳部もあるのに、さらに山岳会に？なぜですか？〉  
岩登りがしたかったんです。高校の山岳部では岩登りは禁止でしたから。

〈本当にその頃から山がお好きだったんですね。山岳会でのエピソードを聞かせてください。〉

山岳会では、自分が一番年下だったので、先輩方がとてもいい方ばかりでよく面倒をみてもらいました。技術を指導してくれるだけでなく、装備や旅費なども援助してもらったんです。その代わりに、荷物を背負ったり食事の準備をしたりといろいろ働きましたね。高校3年生の夏には北アルプスに18日間いました。山岳会の合宿や山岳部の山行などが続いている、高校生だった私は少しでも長く山にいたかったので、合宿と合宿の間も山に留まることにしたんです。一般のルートに加えて、奥穂の南稜、コブ尾根、明神AB稜や、上高地の反対側の六百山などを登りました。



アムネマチン峰(6282m)登頂(左から2番目が井口さん) 1993.8.8

〈そんなに長くて、飽きることはなかったんですか?〉

全く飽きませんでした。まあ、今でも飽きずに山に登っている訳ですからね。

〈失礼しました。愚問でしたね。でも当時高校3年生ですよ。勉強は大丈夫だったのですか?〉

勉強はほとんどしなかったですね(笑)。勉強なんかそっちのけで、山岳部では高校3年生の冬山合宿が赤石岳に決まり、その魅力に参加していましたから。さすがに先生も「3年生で合宿に来るなんて…」と少しあきれ顔でしたが、おかげで大学受験に失敗してしまったんですけど。

〈…。ご家族は何もおっしゃらなかったんですか。〉

やっぱり心配だったと思いますよ。実は大学も1校は受かったんです。けれど、親はお金を出してくれなかった。きっと親しく指導してくださっていた方がその大学の山岳部の監督だったので、山岳部に入られると困ると思ったのでしょう。

〈そこで就職を決めたわけですね。〉

ええ、親に頼るのではなく、これからは自分の稼いだお金で山へ行こうと決心したんです。なかなか職が見つからず苦勞したのですが、何とか就職することができました。

〈就職してからも山への情熱は冷めなかったんですね。〉

冷めるところか、どんどん高まっていきました。就職してから5年後に鈴鹿学園という企業内の学校に受かったのですが、それも、そこへ行けば鈴鹿の山や飛騨の山に登れるという思いからでした。また、食事以外のお金は全部山につぎ込んでいましたね。でもいつか海外の山に行こうと、「ヒマラヤ貯金」を始めたのもその頃です。

〈「ヒマラヤ貯金」ですか。目標が壮大になってきましたね。〉

まあ絶対にヒマラヤというような具体的なものではなかったですが、自分の中では高校生の頃から、いつか海外の山へ行く、と決めていたようなところがありました。何事も計画的にやらないとだめですね。

〈計画的…耳が痛いですが(笑)。そういう計画的な準備と山への熱い思いが、マッキンリーへとつながっていくわけですね。〉  
はい、そうです。

〈初の海外遠征の様子については次回にお聞きするとして、最後に、お子様たちとは一緒に登ることもあるのですか?〉  
小さい頃には行きましたが、登っている時は厳しく接したので次第に山から離れていきましたね。

〈やっぱりアルピニストとして、1からしっかりと教えたかったということですね。〉

いえいえ、違いますよ。山が楽しいと思って山の世界に入られたら困るでしょ。山は危険だし、親としてはやっぱり心配ですからね。(…。んん?ご自分は…??)



アムネマチン峰登山隊の仲間と(前列左から4番目が井口さん)

初回のインタビューは、どこからこの情熱が湧いてくるのだろうと、私の知らない登山家の姿に驚かされっぱなしでしたが、最後にはご家族を思いやる優しいお父様の顔をのぞかせてくれました。次回はいよいよマッキンリーの海外遠征の様子をお聞きします。どうぞ期待!!

(インタビュー：清水毅・中込景子)

# 信越トレイルに行ってきました♪

記：中込景子

「少し登りになりますので滑らないように注意して下さいね」と声をかける優しいガイドさんのすぐ後ろで、「いやあ、ここは平らだねえ～」と何とも場違いな声を発するファンクラブ会員。確かに、南アルプスの急峻な山道とは違う、緩やかなトレッキングロードですけれど…(^\_^)

この日私は、南アルプス市が早川町、富士川町などと協力して進めている、中部横断道沿線の活性化を目指すプロジェクトの視察にちゃっかり同行させていただきました。今回視察に行った信越トレイルは、新潟と長野の県境に連なる関田山脈にある、全長 80 km のロングトレイルです。私たちが歩いたのは、ほぼ 100% というブナの純林。ブナ好きの私には何とも贅沢な森でした。根元からぐっと曲がったブナたちが、多い時には 8m も積もるといふ豪雪地帯であるということを物語っています。そんなブナたちがアーチを作り、晴れた日には日本海まで見渡せるというトレッキングルート。新緑の季節は、それはそれはステキだろうなあ…と想像するだけでうっとりしてしまいました。

信越トレイルは、NPO 法人信越トレイルクラブが中心となり、国や県、地域と連携しながら旧道や古道を復活させて整備させたルートです。今も地域の人達やボランティアと協力しながらトレイルを整備し、メンテナンスを行っているそうです。また、人と自然とが共存する里山ならではの生活を体験するイベントが、四季を通して数多く企画されていました。地形や環境の違いはあるけれど、地域の人達との交流を通じた自然環境の保全や地域全体の活性化を目指している芦安ファンクラブの今後の活動の展開にも通じるものがある、と強く感じました。(暖かくなったらのんびり深呼吸しに行ってみよう。)



## ファンクラブのホームページが新しくなりました!

2012年12月より、芦安ファンクラブのホームページがリニューアルしました。以前よりも芦安ファンクラブの活動が分かりやすくまとめられています。登山教室やイベントのお知らせなどはもちろん、ファンクラブ通信もウェブ上でご覧になることができます。また、ツイッターも始めましたので、芦安ファンクラブの活動や芦安の季節の風景などをリアルタイムで発信していきます。

新しくなったホームページにぜひ遊びに来て下さい!!

ホームページリニューアルにともない、アドレスが変更になりました。旧ホームページからは自動でジャンプできるようになっています。お気に入りに登録されている方は変更をお願いします!

新アドレスはコチラ ↓

<http://ashiyasu.com>

